

農業分野

二つの日本一を有する産地機能の維持・強化

主な取組と現れ始めた成果

- ナス** 優良品種の導入として、土佐鷹を推進→目標80haに対し28.9ha(H24園年見込み)となっている。
収量増については、18t/10a採りを目標に推進 →18t採り達成農家はH22園年は26戸であったが、H23園年は高収量農家のウエイトが高くなってきている。
まとまりのある産地づくりについては、特に安芸集出荷場管内のまとまりづくりを推進 →学び教えあう場の活用等により、受け込み量が増加するなどまとまりにシフトしてきている。(系統出荷率目標62%に対し52%)
- ユズ** 新植・改植の推進 →JA土佐あき管内で2haとなっている
ユズ園の適正管理の仕組みづくり
→北川村においてユズ銀行を設立(H21.10)、収穫・剪定作業の補完等を実施。
→集落営農組織及び農作業受委託組織は目標の3組織化を達成。
→生産履歴記帳率は目標の100%を達成。
搾汁施設の高度化等
→JA土佐あき北川支所では搾汁機能の高度化(H21.10)が行われ過去にない集荷実績となった。また、販路開拓により飲料企業との取引が拡大している。
→JA馬路村では、ユズ茶の製造販売に着手(H22.11～)
- 園芸品目を中心とした環境保全型農業の更なる推進
→土着天敵技術の導入などにより、ピーマンでは天敵導入率が100%となったほか、他の品目でも拡大している。
この結果、ナス類ではエコシステム栽培が80%となり、販売面でも活かされている。



学び教えあう場(10箇所)

1.まとまりのあるナスの産地づくり <JA土佐あき>
【室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村】

2.ユズを中心とした中山間地域の農業振興 <JA土佐あき、JA馬路村>【室戸市、安芸市、安田町、北川村、馬路村】

3.環境保全型農業のさらなる推進
【室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村】



土着天敵の導入

クロヒョウタンカスミカメ タバコカスミカメ

今後の方向性(次期計画案件と整合していく。以下同様)

- ナス** これまでの取組により、学び教えあう場、研究会等の重要性を再認識できた。
これらの場を更に活性化していくことにより、特に安芸集出荷場管内の更なるまとまりの形成と、土佐鷹の普及拡大に取り組み、生産者所得と地域ブランド力の向上につなげていきます。
- ユズ** 生産性や品質の向上のための新植・改植を継続して推進していくとともに、青果玉出荷量の増加を図っていきます。
また、新たな加工品の開発、果汁処理の高度化を検討するなど、果汁の需要拡大に取り組み、生産者が安心して持続的に栽培できる環境を整えていきます。

主な取組と現れ始めた成果

- 「森の工場」づくり →4工場増え12工場(4,433ha、H23,3末)となっている。
事業体や担い手の育成→林業経営体数は9事業体。林業従事者は221人(H22:対前年104.5%)となっている。
素材生産量の増大→目標103,000m³に対し67,827m³(H21:対前年88.8%)と減少傾向にある。長期の価格低迷が重くのしかかっている。
間伐面積→目標2,000haに対し1,592ha(H22)
林業加工品の販売促進→エコアス馬路村において、ギフト、ノベルティ商品を新たに開発し試験販売を開始(4品)。
また、既存製品を中心に、国内・海外の展示会へ積極的に出展し、これまで成約が国内11件、海外6件となっている。
木材木製品の出荷額:目標264百万円に対し201百万円(H22)
木質バイオマスの推進→木質ペレットボイラーは安芸市と芸西村で62台導入、一方、木質ペレット製造工場も完成し製造を開始している(安芸市企業、H22.10～)。
未利用資源の活用:目標5,000m³に対し5,283m³(H22)
土佐備長炭の生産体制の強化と販売促進→新たな共同窯(3窯)・研修窯(3窯)を設置し、生産量の拡大を図りながら、新規製炭者の確保と育成に着手している。
(目標800tに対しH22は751t、新規製炭者の研修受入7名)



7. 林業再生事業<森林組合>【管内全域】

10. 林業加工品の販売促進 <エコアス馬路村>【馬路村】

9. 木質バイオマス活用事業<安芸市、芸西村>【安芸市、芸西村】

8. 土佐備長炭生産・出荷・販売体制の強化事業<室戸市木炭振興会、土佐備長炭生産組合>【室戸市、東洋町】



今後の方向性

- 林業再生:** 林業・木材産業を業として成り立たせ、森林所有者への利益還元、持続可能な森林経営の回復に向けた更なる取り組みを継続します(成長戦略)。
- 木質バイオマス:** まずは、安芸市・芸西管内での需要と供給をバランスさせる取り組みを進めます。
- 土佐備長炭:** 安定供給体制の確立と原木の安定確保を目指します。

林業分野

豊かな森林資源を活かす林業再生への取組

主な取組と現れ始めた成果

キンメダイのブランド化に向けた取組→脂肪含有率の測定結果、産業振興アドバイザーを活用した市場調査結果を踏まえ、ターゲットエリアを関西圏にするなど、ブランド化の方向付けを行った。

10. 1億円の水揚げ(H22:対20年比107.7%)。

スジアオノリの陸上養殖:目標販売額を22百万に上方修正。目標達成の見込み。

低価格魚の付加価値を高めるための加工業者との連携→加工業者と漁協の連携による販売事業(まずはメサバ)を展開。サバの不漁により計画を下回る状況が続いていたが、

H23年度に入りほぼ計画どおりの販売実績で推移している。雇用の拡大(11名)にもつながっている。

新たな漁業の導入→アカムツなど深海縄漁業の試験操業を開始(H21~)。

ダイビング事業の導入→事業実施主体が不在などにより進展していない。

観光分野と連携→干物づくり体験(海の駅とろむ)をはじめ、室戸市内の飲食店では、秋まつり御膳(キンメダイ)などの旬の味の提供が始まっている。



11. キンメダイのブランド化に向けた取組 <芸東水産業改良普及協議会他>【室戸市、奈半利町】

13. 低価格な定置網漁獲物の販売戦略 <県漁協、旬タカシン水産>【室戸市】



定置網漁獲物の販売戦略

今後の方向性

高級魚であるキンメダイの消費拡大と販売促進を図る一方、ビンナガマグロなどのように県内船籍による近隣県への水揚げを地元水揚げへの拡大に取り組みます。

シラスや低価格魚の付加価値を高めるため、加工業者との連携による販売事業を展開します。



シラス魚価の向上

14. 新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上 <安芸おじゃ娘、青年漁業者グループ>【安芸市】

主な取組と現れ始めた成果

室戸海洋深層水の利用拡大→業界(高知海洋深層水企業クラブ)と連携した販路拡大(目標155億円に対しH22:127億円)と新エネルギーなどの新しい分野への利用拡大に向けた様々な共同研究や大型プロジェクトを海洋深層水研究所で新たに開始。

地域資源を活用した加工品開発→田野町や芸西村で直販所を中心とした加工品の開発、施設の増改築による機能強化が図られている。

17. 深層水の利用拡大 <室戸市>【室戸市】

今後の方向性

地域資源を活用した加工品開発や販路の拡大に取り組みます。

また、道の駅の情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めていきます。

20.道の駅「田野駅屋」の機能強化 <田野町、田野駅屋>【田野町】

21.地場産品直販所「かっぱ市」の機能強化 <芸西村、旬かっぱ市>【芸西村】



田野駅屋の機能強化

主な取組と現れ始めた成果



23.地質資源を活かした交流人口の増加 <室戸ジオパーク推進協議会他>【室戸市】

新たな観光資源の磨き上げ→「魚梁瀬森林鉄道遺産」ではJTBツアーの催行、「室戸ジオパーク」は世界申請国内候補に決定されるなど取組みが実を結び始めている。地域資源の有機的結びつけ→定期周遊バスの運行(H21～)。分野別の体験メニューなどを紹介する観光素材集「土佐東方見聞録」を作成し、旅行エージェント等への営業に活用。「ごめん・なはり線」を活用した取組→定期周遊バスとの連携、ジオパークパスを実施するなど、ごめん・なはり線を活用したコースメニューの提案を実施。
(乗車実績としては、周遊バス:H22.1.16～H23.6.30 1,790名、ジオパークパス:H22.10.1～12.12 12名、H23.4.1～6.30 8名)。



29.魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大<中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会>【中芸5ヶ町村】

22.体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備 <安芸広域市町村圏事務組合>【安芸地域全域】

「龍馬伝」を活かした取組→岩崎弥太郎や中岡慎太郎を輩出した地域として、地域での滞在がより魅力あるものとなるよう、ボランティアガイドの育成、ウォーキングコースやレンタサイクルコースの設定、「中岡慎太郎館」のリニューアル、また、特産品の開発などを行った。H22: 弥太郎生家には20万人強が来訪、中岡慎太郎館には2万8千人強(対前年約4倍)の来場があった。

26.「龍馬伝」から「志国高知龍馬ふるさと博」への観光推進<安芸市他>【安芸市】



33.龍馬伝を活かした観光振興 <北川村他>【北川村】



中岡慎太郎館リニューアル

今後の方向性

既存の観光資源や新たな観光資源である「魚梁瀬森林鉄道遺産」、「室戸ジオパーク」を更に磨き上げていくとともに、体験型観光メニューの充実、「食」の魅力づくり、民泊等受入態勢の整備を圏域一体で行い、観光の産業化と持続的な魅力ある観光地づくりを目指します。

<参考>

	H20園年	H21園年	H22園年	H23園年	
ナス販売額(JA土佐あき)	5,648	5,747	5,612	5,502	百万円
ユズ酢玉受け込み量 (JA土佐あき)	3,851	6,289	4,075		t ※6月末現在

主な指標及び目標

項目	計画策定時	目標	現状
ナス(土佐産)の作付面積	H19: 1.1ha	H23: 8.0ha	H24園年: 28.9ha
ユズの生産量	H16~17平均 : 4,085t	H22~23平均 : 3,924t	H22 : 5,136t
林業素材生産量	H18: 92,000 m ³	H23: 103,000 m ³	H20: 76,418 m ³ H21: 67,827 m ³
間伐面積	H19: 1,590 ha	H23: 2,000 ha	H20: 1,023 ha H22: 1,592 ha
主要水産物の単価	H19: 345円	H23: 362円	H21: 339円
深層水関連商品売上額	H19: 148億円	H23: 155億円	H22: 127億円
園内主要施設訪問者数 ※ 県調査	H19: 100,000人	H23: 130,000人	H21: 88,799人 H22: 120,394人
園内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H19: 127,000人	H23: 140,000人	H21: 116,810人 H22: 137,439人